

人文(日本論 / 近代史 / 民俗・文化人類学)ご担当者さま

日本を愛した人類学者

エンブリー夫妻の日米戦争

予価:本体2200円+税

四六判並製・352ページ

2018年11月下旬刊 忘羊社

田中一彦 Kazuhiko Tanaka

2018年度 地方出版文化賞・功労賞受賞作待望の続編!

1935年(昭和10)から1年間、熊本で最も小さな農村「須恵村」に滞在し、戦前唯一の日本農村研究書を感動的な筆致で著した

アメリカの社会人類学者エンブリーとその妻エラ。

戦前、いち早く象徴天皇制を着想、

離日後は情報機関に雇われ、

日系人強制収容所の改善を訴えながら、

さらに『菊と刀』に代表される“上からの日本観”に

異議を唱え、戦後はFBIの監視下、

傲慢な占領政策を戒め続けた俊英の

悲劇的な死までを描いた本格的評伝!



- プロローグ 日米開戦とエンブリー
- 第1章 人類学への道
- 第2章 須恵村へ
- 第3章 日米開戦、情報機関へ
- 第4章 日系人強制収容所での葛藤
- 第5章 占領軍士官を教育
- 第6章 二度のミクロネシア調査
- 第7章 戦火のインドシナへ
- 第8章 ユネスコ、ポイント4、そしてFBIの影
- 第9章 須恵村・国家・戦争
- 第10章 自民族中心主義に抗して
- 第11章 「国民性」論争
- 第12章 『菊と刀』への批判
- 第13章 ジョン・ダワーのエンブリー批判
- 第14章 「占領」と民主主義
- 第15章 象徴天皇制とエンブリー
- 第16章 『須恵村』と農地改革
- エピローグ 日本への「愛」

田中一彦(たなか・かずひこ)…1947年、福岡県瀬高町(現みやま市)生まれ。京都大学経済学部卒。新聞記者を経て、2011年から2013年まで熊本県あさぎり町に単身移住し取材。プータンが進めるGNH(国民総幸福)にも関心を持ち、日本GNH学会常任理事を務める。『忘れられた人類学者』(2017年、忘羊社)で第31回地方出版文化賞・功労賞を受賞。

忘羊社	注文	日付	ご担当	ISBN978-4-907902-19-3 C0023
	冊	/	様	日本を愛した人類学者 本体 2,200円+税
	冊	既刊	忘れられた人類学者 *2018年 地方出版文化賞・功労賞 / 朝日新聞全国版読書面で紹介	定価 2,000円+税
福岡市中央区大手門1-7-18-901 電話 092(406)2036				

ご注文はFAX:092-406-2093(忘羊社)まで